

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報 おおづ

Proud!
東日本大震災の復興を支援しよう
Japan

Public relations
OZU TOWN

広報 おおづ 2013 9

発行・編集 ■大津町・企画課
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地
TEL:096(293)3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 ■ホーア印刷株式会社
※広報おおづは随所に配慮して再生紙と大豆インクを使用しています。

JFD
FONT
易やくく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

今月のみどころ

大津元気くんの
食料備蓄をしよう!
災害に備え、食料備蓄をしましょう

クローズアップ大津人
藤本義隆さん

9

SEPTEMBER 2013

Clozu-up Ozu-jin

クローズアップ 大津人



室小学校で行われた着衣水泳教室での一枚。服を着たまま泳ぐことの難しさに戸惑う子どもたちに、自ら手本を見せながら優しく指導を行っていた

町の宝である 子どもたちの 命を守りたい

ふじもとよしとか
藤本義隆さん (森)



7月に室小学校で行われた着衣水泳教室。NPO法人クラブおおづが主催し、町水泳協会が協力しているこの取り組みに、指導者の一人として藤本義隆さんも参加した。今回はそんな藤本さんをクローズアップする。

大津町水泳協会に所属している藤本さん。今回の着衣水泳教室にも、その一員として参加した。室小学校の5年生を対象に行われたこの教室では、服を着たままプールに入ってから水中を歩く、浮き身の姿勢を取る練習をする、ペットボトルを利用した救助法を体験するなどのプログラムを行った。その目的は、水の事故から子どもたちの命を守ることにある。

小学生の頃から水泳を続けている藤本さん。長年の経験から、水の楽しさも恐ろしさもよく知っている。「それなりの心の準備ができていれば、いざというとき、パニックになることを防げます。そのため、子どもたちには助ける側と助けられる側、両方の経験をしてもらいました」と藤本さんは話す。水に落ちたときは、まずパニックにならないことが大切だ。今回のように、服を着た状態で水に入るとどうなるのか前もって経験しておけば、実際に溺れてしまっても、パニックになることが少なくなるという。

今後の目標について尋ねると、「活動に賛同してくれる人が増えて、町全体や県、全国に広がっていけば、水の事故も減ると思います。全ての子どもたちがこういった講習を受けられるようになればいいですね」と語ってくれた。町の宝である子どもたちの命を守るため、藤本さんはこれからも活動を続けたい。

こゝろの声

▼仕事の帰りに塾の前を通ると、午後10時前という時間にもかかわらず、たくさんさんの制服姿の子どもたちが勉強していました。私は塾などに通ったことがないので、こんなに遅い時間まで勉強しているのかと驚いたのですが、他の人に話を聞くと、それが普通のことなのだそう。私も子どもたちを見習って頑張ろうと思います。(1S)

▼厳しい残暑が続いています。ある日夜遅くに目が覚めて、夜風にあたって涼もうとふらりと外に出たときのことです。ふと上を見上げると、空には秋から冬にかけて見られる星座が。夏にも見られるとは知らず、とても驚きました。同時に、夏の終わりが近づいているのだなあと季節の移ろいの早さを感じさせられました。(NA)